

災害に備えた搬送法・体位管理・止血法

笛吹市



FUEFUKI CITY

傷病者の管理法 安全の確認

周囲の安全を確認し、状況にあわせて自らの安全を確保してから傷病者に近づきます。



傷病者の管理法（安全な場所で傷病者の体温を保つ）

悪寒、体温の低下、顔面蒼白、ショック症状などがみられる場合は、傷病者の体温が逃げないように毛布や衣服などで保温します。

※地面やコンクリートの床などに寝かせるときは、身体の上に掛ける物より、下に敷く物を厚くします。



傷病者の管理法 体位(姿勢)の管理法

傷病者が**最も楽に感じる体位にして安静を保つ**ことが大切です。

傷病者に適した体位を保つことで、呼吸や血液の循環を維持し、苦痛を和らげ、症状の悪化を防ぐのに有効だからです。

体位(姿勢)には、下の写真のようなものがあります。

仰臥位(仰向け)



全身の筋肉に無理な緊張を与えない姿勢です。

坐位(座った)



胸や呼吸が苦しいときの姿勢です。

回復体位



意識がない傷病者で、嘔吐などによる窒息の危険があるときや、やむを得ず傷病者のそばを離れるときに行います。

搬送法

震災時などでは、**近所の住人がお互いに協力して傷病者を搬送**しなければならない場合も生じます。

1名での搬送はやむを得ない場合にとどめ、複数の者による搬送を心掛けましょう。

※ここでは、できるだけ苦痛を与えずに安全に搬送できる適切な搬送法、身近な物を使用した応急担架の作成を紹介します。

担架を用いない（徒手搬送法）

・担架などが使えない場所で、危険な場所から安全な場所へ緊急に移動させる搬送法

1名で背後から後方に搬送する方法



□ ポイント

上半身を傷病者にしっかり密着させて、おしりをつりあげるように搬送します。

傷病者の腕に負担がかかり、かかとを引きずることになるので注意が必要です。

1名で背負って搬送する方法



□ ポイント

おんぶの体勢ですが、傷病者の両腕を交差または平行にさせて、両手を持って搬送します。

毛布やシーツを利用し搬送する方法

傷病者を毛布やシーツに包んで搬送します。
注)胸・腹部を圧迫することに注意しましょう。



複数人での搬送法

2名で搬送する方法

両手を組んで搬送する方法

前方



背中側



傷病者の前後を抱えて搬送する方法



注) 傷病者の首が前に倒れる可能性があるので、気道の確保に注意して下さい。

毛布を利用した応急担架

毛布の両端を丸め持ちやすくして握り、持ち上げて搬送する方法です。
棒がない場合で、**4名以上の人がいる場合**に適しています。



注意点

- 搬送の場合は、階段を上る時を除き、傷病者の足側を進行方向にして搬送します。
- どの搬送方法も体力が必要です。1人でも多くの人を集め交代で搬送するようにし、動揺や振動を少なくしましょう。

しっかりと腰を落とし、掛け声をかけて持ち上げましょう。



※傷病者への声かけを行うことで、不安を解消し、容態の変化にも気が付くことができます。

応急担架の作成と搬送法

棒と毛布を使った応急担架の作り方

毛布を広げ、約3分の1の場所に棒を1本置き、棒を包み込むように毛布を折り返します。もう1本の棒を、折り返した毛布の上(端を15cm以上)に置き、残りの毛布を折り返します。

1. 約3分の1の所に棒を1本置く
2. 棒を包み込むように毛布を折り返し



注) 硬い棒か木を使い、折れないように注意



3. もう1本の棒を、折り返した毛布の上(15cm以上)に置く



4. 残りの毛布を折り返す



5. 完成



止血法

出血している部位を直接圧迫する直接圧迫止血法が基本となります。

1. 出血部分を確認



2. きれいなタオル・ハンカチをのせる



3. ビニール袋などを使って 3分以上強く圧迫する



注) 素手は危険です



血液に直接触れないように、ゴム製の手袋やビニール袋を使用しましょう。

災害に備えた、搬送法・体位管理・止血法です。

HPの閲覧、ありがとうございました。